



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

## 特別支援教育講座

令和元年7月26日（金）実施

【講義】「インクルーシブ教育システムについて理解し、その実現のために必要な特別支援教育の実践的知識・技術について」  
講師：高知大学 是永 かな子 教授

インクルーシブ教育システムとして多様性を前提とした授業づくり、学級経営が求められている。



授業づくりは、児童生徒理解＝特別支援教育だと考えてよい。

- いろんな人がいることを相互理解し、どうすれば一緒に学べるかを考える。
- 落ち着きのない子を教室に入れる方向で考えるのがインクルーシブ教育。
- 一緒にいられる場所をつくる。
- いろんな支援がありながら共に学ぶ。「いろんな子がいるクラスとは？」と考えることが重要。

### 全員参加の授業づくりがしたい！

- ・ あきらめてしまう子どもに対して、先生があきらめない。先生があきらめなければ子どもは育つ。できることを先生が示し、言い続ける。できることを示す。あきらめなければ子どもを救うことができる！



全員参加の授業のために

子どもに届く授業をつくるために特別支援教育の観点や方法論を取り入れよう！

- ・ 対話的な学びのための仕掛け
- ・ ペア学習、グループ学習
- ・ つぶやいてよい授業（つぶやきを拾う、机間指導等）

### 問題行動改善の基本的考え方

問題行動は意思表示。繰り返す行動は本人が困っているということ。

- 子どもの行動を、以下の三つに分けて対応する
  - (1) 増やしたい行動は、具体的に褒めて強化する。
  - (2) 減らしたい行動は、行動を無視して、あるべき姿を提示する。時としてブロークンレコード（同じ言葉を繰り返す→「宿題3枚、宿題3枚、宿題3枚」）
  - (3) 許せない行動（他傷、他害、反社会的行動）
    - 短く注意、場面転換（危ない物を自然に取り上げる、環境整備、話が聞けない状態のときには騒ぎ立てない）
    - 落ち着いた時に子どもの気持ち・行動を言語化、よくないことの常識的提示
    - 問題行動を「意思表示」としてとらえる
    - その行動で何を訴えたいのだろうか？（思いが伝わらない？困っている？自分を見て欲しい？）

ルールの明示と褒める学習規律

- ・ 学力が低いからレベルの低い課題を与えるのではなく、質を高めるとは何なのかを考え学習内容を精選する。＝教材研究
- ・ 「めあて」と「まとめ」を明示する。
- ・ 時折、絶対評価を用いる。
- ・ 個別の課題を念頭に置く。



### 否定語ではなく肯定語で話す

- 肯定語を使うと、優しい指摘になり、今すべきことが分かる
  - (1) 「廊下を走るな！」 → 「廊下は歩きます」
  - (2) 「大声出さない！」（だけではどうすればよいか分からない）→「話聞こうね」
  - (3) 「屋上で遊ばない！」（代替行動と制限で考える）
    - 「運動場で遊びましょう」（代替行動）
    - 「屋上には大人と行きましょう」（制限）

何度言っても伝わらない時は、「その方法では伝わらない」と捉え、違う方法（具体的に、誘い掛ける・モデルを示す、視覚的に示す＝ホワイトボードに書く、復唱させる＝運動感覚）で伝えてみる。

### 【受講者の感想】

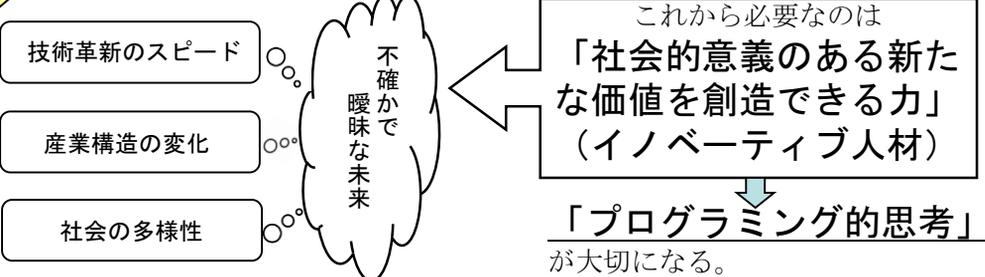
- ・ 教室で教師がモデルとなり、応援する言葉を本人に効く言い方で優しい言い方をすることが大切だと思った。
- ・ 特に心に残っていることは「学級が多様であることは深い学びにつながる」ということである。困っている子の悩みをみんなで共有できる学級にしていきたいと思った。
- ・ 子どもたちに「できる」と伝えていけるような教師になりたい。子どもを見捨てず重要な存在であることを伝えていきたいと思う。そして特性に応じた対応をしていきたい。

概要

子どもたちが、不確かで曖昧な未来を力強く生き抜くために必要な“プログラミング的思考”について、その本質と、各教科・領域への導入について理解する。

講義・演習「未来から授業をデザインする～プログラミング的思考を育む情報教育とは～」  
講師：高知大学 川村 晶子 客員准教授

子どもたち自ら情報(事実)収集し未来を想像。今、何をすれば世界をよりよい方向に変えていけるか判断し、多様な人を巻き込んで行動する。その力の源がプログラミング的思考!



◎ プログラミング的思考強化にはコミュニケーション力も重要  
コミュニケーション力の基礎は「聴く力」。

そして、

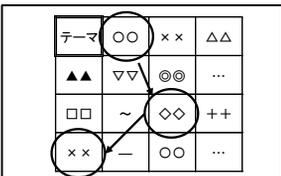
- 1 雑談力
- 2 意味を的確にやりとりする力
- 3 アイデアを生み出す力

ただ話ができる、ではなくいろいろな人とアイデアを生み出していくことがコミュニケーション力!

※ 留意点 ※  
プログラミング教育の目標は、プログラミングができる子どもを育てることではない!!

プログラミング的思考を育むための実践例

【1分間スピーチ(自己紹介)】



※ 限られた時間の中で、相手や場に合ったプレゼンを行う力を養う。

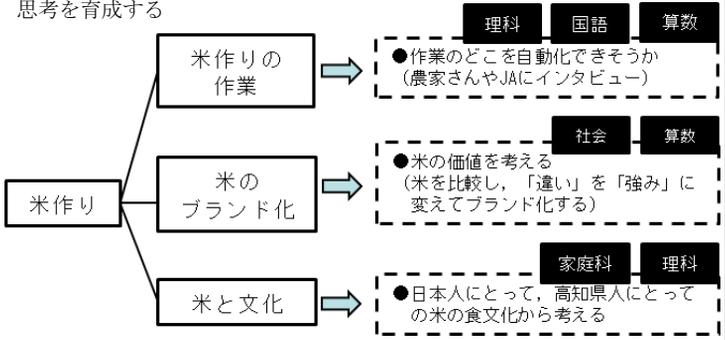


- ① フレームの中に、連想できる項目やキーワードを記入。
- ② 必要なキーワードを選び、伝える順番を決める。

国語の授業でも、手軽に仕組むことができる!

【「米作り」を題材にしたプログラミング的思考の広げ方】

- ① 作業や環境などの中で、どの部分をプログラミングできるか考える
- ② 人の作業を代替する視点、新たな価値を生む視点でプログラミング的思考を育成する



これだけ多くのプログラミング的思考を仕組むことができる!

演習 【新聞記事を使った国語の授業案づくり】

「発想力」×「プレゼン力」×「思考力」を高めるプロセス

「アイディアスケッチ」作成!!

1

AIに関する新聞記事をじっくりと見て、アイデアを練る。

2

ブレインストーミング(集団で考えを出し合う)で発想力をアップする。

3

タブレット端末を使って、発表用資料を作成し、共有する。

プログラミング的思考を育む授業案アイデアシート

対象学年	授業案
単元名(教科)	↑ 授業案
新聞記事	↑ 新聞記事

【受講者の感想】

- ・ 劇的に変化する未来から今を考える思考が大切だということを実感できた。
- ・ プログラミング的思考が全ての教科において必要になる考え方であることを確認できた。特に論理的思考を高めるために国語科の大切さが分かった。
- ・ 私は順序立てて話すことが苦手だが、話す内容をフレームに単語で入れていき、メモをするだけで面白く話すことができた。教師と一緒に学ぶという姿勢も大切だと思った。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。